

大洲市舗装修繕計画



令和8年3月

大洲市 建設部 建設課

1) 計画の概要

(1) 策定目的

本市では、公共施設等の老朽化の進行に加え、人口減少や少子高齢化に伴う利用者の減少及び利用ニーズの変化、さらには合併前の旧自治体間における施設機能の重複やサービス水準の差異など、さまざまな課題を抱えています。また、限られた財源の中で、公共施設等の更新や維持管理をどのように進めていくかが大きな課題となっています。

このような状況を踏まえ、本市では平成 28 年 1 月に公共施設等の現状と課題を整理した「大洲市公共施設等白書（以下、「白書」という。）」を作成しました。さらに、平成 29 年 3 月には、白書で整理した現状や将来の見通し等を踏まえ、公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本的な方向性を定めた「大洲市公共施設等総合管理計画（以下、「総合管理計画」という。）」を策定し、令和 4 年 3 月に一部改訂を行いました。

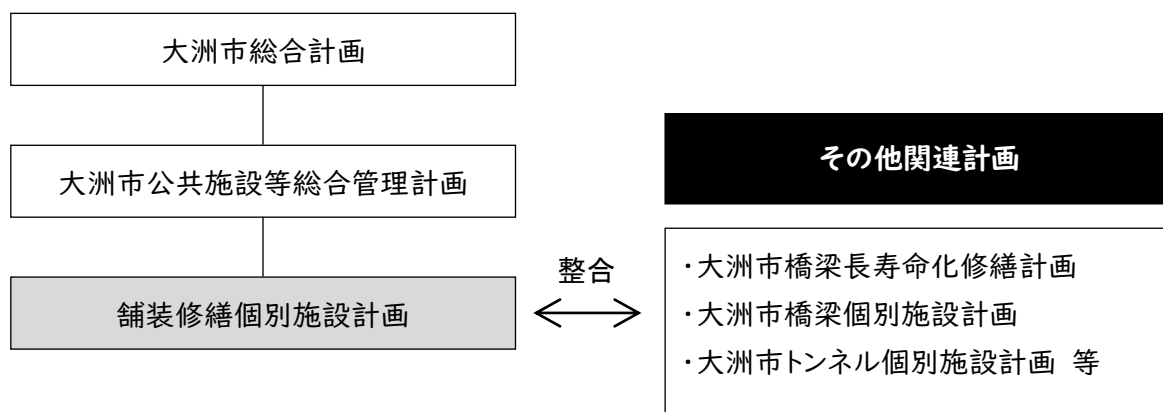
本計画は、総合管理計画で定めた基本方針及び考え方を具体化するため、施設分類ごとに実施する事業内容や実施時期等を定める個別施設計画として策定するものです。

(2) 計画の位置付け

本計画は、総合管理計画で定められた基本方針や考え方を実現するための施設分類別の実施計画として位置付けます。

なお、大洲市総合計画（以下、「総合計画」という。）や総合管理計画のほか、その他関連計画とも整合を図りながら推進します。

図 1 上位・関連計画との関係図



(3) 計画期間

本計画の計画期間は令和 6 年度から令和 15 年度までの 10 か年度とします。

なお、上位・関連計画の改定や計画の進捗状況、社会状況の変化等を踏まえて、適宜、計画の見直しを図ります。

(4) 対象施設

大洲市の管理道路約 1,700km のうち、主要幹線市道は表-1 に示すとおり約 284km であり、管理路線全体の 17%を占めています。(図2-1)

なお、主要幹線市道のうち、1 級市道が約 127km (約 44%)、2 級市道が約 158km (約 56%) となっている。(図2-2)

また、管理道路の舗装状況のうち、主要幹線市道は表-2 が示すとおり、1 級市道が 95.5%、2 級市道が 99.0%となっている。

表-1 管理道路の状況

施設名称		路線数(路線)	延長(m)
主要幹線市道	1 級市道	58	126,581
	2 級市道	57	157,915
	計	115	284,496
一般市道	その他市道	1,785	1,387,239
合 計		1,900	1,671,735

令和 8 年 3 月末現在

表-2 管理道路の舗装状況

施設名称	未舗装道延長(m)	舗装道延長(m)	舗装率(%)
1 級市道	5,687	120,894	95.5
2 級市道	1,657	156,258	99.0
計	7,344	277,152	97.4
その他市道	345,711	1,041,528	75.1
合 計	353,055	1,318,680	78.9

令和 8 年 3 月末現在

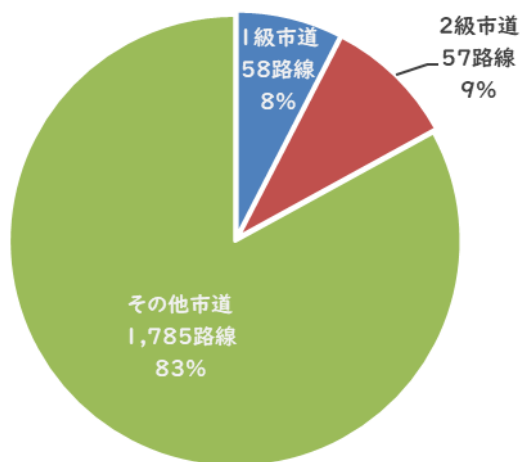


図2-1 大洲市管理路線の延長割合（道路種別別）

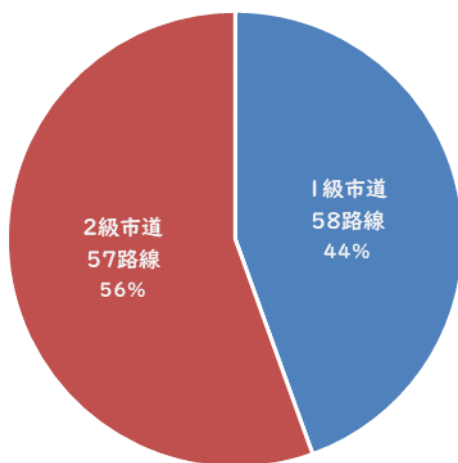


図2-2 大洲市主要幹線市道の延長割合

2) 市道の現況

2-1 舗装の状態等（個別施設の状態等）

市道の点検は、令和 5 年度に管理道路のうち、主な幹線道路の 37 路線を対象に路面性状調査を実施しています。点検結果の概要を図-3、評価区分を表-3 に示します。その結果、Ⅰ区分（健全）が約 50%、Ⅱ区分（表層機能保持段階）が約 20%、Ⅲ区分（修繕段階）が約 30%となっており、修繕が必要なⅢ区分が全体の約 3 割を占めています。

また、調査路線全体の平均MCI※¹は 5.4 であり、望ましい管理水準（ $5.0 \leq \text{MCI}$ ）以上となっているものの、今後ますます施設の老朽化が進む状況にあります。

※¹ MCIとは、舗装の状態を示す指数であり、ひび割れ率、わだち掘れ量、IRI（平たん性）の 3 つの値から算出される複合指標である。10 点満点の評価であり、数値が大きいほど舗装の状態が良いことを表しています。

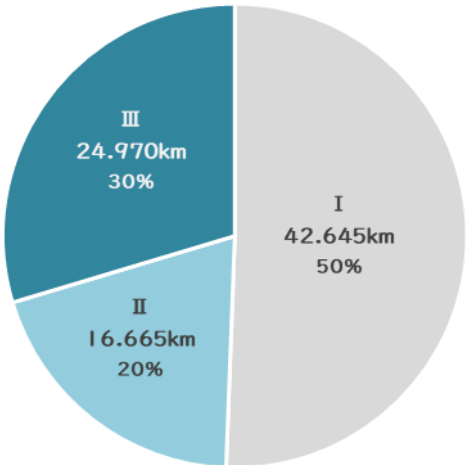


図-3 大洲市路面性状調査（令和5年度）

表-3 評価区分

健全性区分			修繕の必要性
Ⅰ	健全	$5.0 < \text{MCI}$	望ましい管理水準
Ⅱ	表層機能保持段階	$4.0 < \text{MCI} \leq 5.0$	修繕することが望ましい
Ⅲ	修繕段階	$3.0 < \text{MCI} \leq 4.0$	修繕が必要
		$\text{MCI} \leq 3.0$	早急に修繕が必要

3) 舗装維持管理の基本的な考え方

3-1 舗装管理の基本方針

舗装の管理は、診断結果を踏まえた適切な措置を行うことで、長寿命化や維持修繕費のライフサイクルコスト削減を目指すことを基本方針とします。

3-2 管理道路の分類

大洲市内の舗装道延長は約 1,300km であり、この全てを同じ水準で管理することは非効率であるとともに現実的ではありません。

限られた予算の中で道路管理を行うには、道路状況に応じて路線の重要度を設定し管理水準に差をつけることが必要となります。

そこで、大洲市の管理道路におけるグループ分けを表-4 のとおりとしました。

表-4 管理道路の分類

施設名称		路線数(路線)	舗装道延長(m)	分類
主要幹線市道	1級市道	58	120,894	B
	2級市道	57	156,258	C
一般市道	その他市道	1,785	1,041,528	D
合 計		1,900	1,318,680	

【出典:舗装点検要領 平成 28 年 10 月 国土交通省道路局】

3-3 管理基準

分類B、Cの路線は、点検結果に基づき、計画的な補修を行います。管理基準は、路面性状調査の測定項目のうち、現状の損傷傾向からMCIを管理指標として、表-5のとおり設定しました。なお、分類Dの路線は、日常パトロール結果や通報情報等に基づき現地状況を確認し、局所的な補修を行います。

また、修繕箇所を抽出するための診断の目安は、表-6 に示すとおり修繕段階Ⅲとします。

表-5 市道の管理基準

管理指標	分類	管理基準
MCI	分類B・C	$MCI \leq 4.0$ (損傷レベル大)

MCI評価

健全性区分			修繕の必要性	判定
I	健全	$5.0 < MCI$	望ましい管理水準	損傷レベル小
II	表層機能保持段階	$4.0 < MCI \leq 5.0$	修繕することが望ましい	損傷レベル中
III	修繕段階	$3.0 < MCI \leq 4.0$	修繕が必要	損傷レベル大
		$MCI \leq 3.0$	早急に修繕が必要	

表-6 健全性の診断の目安

区 分		状態	
I	健全 ($5.0 < MCI$)	損傷レベル小	管理基準に照らし、劣化の程度が小さく、舗装表面が健全な状態である。
II	表層機能保持段階 ($4.0 < MCI \leq 5.0$)	損傷レベル中	管理基準に照らし、劣化の程度が中程度である。
III	修繕段階 ($MCI \leq 4.0$)	損傷レベル大	管理基準に照らし、それを超過している又は早期の超過が予見される状態である。 (Ⅲ-1 表層等修繕) 表層の供用年数が使用目標年数を超える場合(路盤以下の層が健全であると想定される場合) (Ⅲ-2 路盤打換等) 表層の供用年数が使用目標年数未満である場合(路盤以下の層が損傷していると想定される場合)

3-4 点検方法

市道の点検方法及び点検頻度を表-7 に示します。分類B、Cの路線は、機器を用いた点検を行い、舗装の損傷状況を定量的に把握します。また、分類Dの路線は、職員による日常パトロールの機会を通じた目視点検を実施します。

表-7 市道の点検方法と頻度

管理区分	点検方法	点検頻度
分類B	機器を用いた点検(委託)	10年に1回程度
分類C	機器を用いた点検(委託)	10年に1回程度
分類D	目視による点検(直営)	パトロール時

3-5 対策の優先順位の考え方

舗装修繕の優先順位は、道路使用者の安全および利便性確保の観点に基づき、表-8 に示す舗装の損傷の状況や道路の重要度を考慮した優先順位により決定します。

表-8 舗装修繕の優先順位評価項目

対策の緊急度(損傷状況の評価)	道路の重要度(道路特性の評価)
・MCI	・車道幅員 ・道路のネットワーク性 ・バス路線 ・緊急輸送道路 ・通学路、スクールバス運行経路 ・主要な公共施設へのアクセス性

4) 対策内容と実施時期、対策費用

4-1 計画期間

本計画の計画期間は、令和 6 年度(2024 年)から令和 15 年度(2033 年)までの 10 か年度とします。

4-2 大洲市では、舗装の損傷状況及び道路の重要度を踏まえた優先順位評価を行い、道路利用者の安全性及び利便性の確保を図るため、計画的に舗装修繕を実施します。
対策内容及び実施時期については、表-9のとおりです。

表-9 舗装修繕の年次計画(2024-2033)

補修年次	路線		対策方法	延長(m)	補修費用 (千円)
	分類	路線数			
R6(2024)	分類 B	1	表層打換え	652	20,764
R7(2025)	分類 B	1	表層打換え	636	33,857
R8(2026)	分類 B	1	表層打換え	375	16,000
R9(2027)	分類 B	1	表層打換え 路床置換え	564	30,000
R10(2028)	分類 B	1	表層打換え 路床置換え	564	30,000
R11(2029)	分類 B	1	表層打換え	187	10,000
R12(2030)	分類 B	1	表層打換え	318	25,000
R13(2031)	分類 C	1	表層打換え	564	30,000
R14(2032)	分類 C	1	表層打換え	318	25,000
R15(2033)	分類 C	1	表層打換え	564	30,000
分類B 計				3,296	169,621
分類C 計				1,446	85,000
合 計				4,742	254,621

令和8年4月末現在